



尾張旭ロータリークラブ

Weekly

「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲  
 ・幹事 桜井 雅博  
 ・会報 占橋 裕志  
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945  
 E-mail: owariasahi@mtetkihohe.ne.jp  
 URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2043回 2013年2月1日(金) No. 1933

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「我等の生業」

卓話担当者:加藤 勇夫君

卓話者:愛知県守山警察署長

警視 山内 直人 様

演題:「尾張旭市内犯罪発生および

交通事故発生状況」

前回 第2042回 2013年1月25日(金) 記 録

○斉 唱:「我等の生業」

○ゲスト:尾張旭市長 水野 義則様  
 一般社団法人 尾張旭青年会議所  
 専務理事 中川 克久様  
 副理事長 江尻 哲久様  
 総務委員長 若杉 拓様

○出席者: 会員28名中23名出席 出席率82.14%  
 前々回補正出席率は1月11日分89.29%

これらの中核となる価値観はすべて、私たちが日常使用している「ロータリーの綱領」と「四つのテスト」に反映されています。これらの価値観は、人と人との関係における高潔さを養い、維持していくために、奉仕の理想を培い、支持するよう、私たちを鼓舞・激励するものです。

(2012-2013年度、ロータリー関連資料より)

会長あいさつ 井田 武憲

本月は、ロータリー理解推進月間です。国際ロータリー戦略計画は、2010年度より有効となり3つの優先項目と16の目標が含まれています。

また、2011年11月より「長期計画」から「戦略計画」に変更されました。内容は本質を軸として、優先項目に「クラブサポートと強化」(さまざまな奉仕活動に参加するよう奨励する・会員の勧誘と維持を改善する)「人道的奉仕の重点化と増加」(ポリオを撲滅する・他団体との協力やつながりを深める)「公共イメージと認知度の向上」(行動を主体とした奉仕を推新する・職業奉仕を強調する)。それに中核となる価値観に、奉仕・親睦・多様性・高潔性・リーダーシップ等をあげています。

幹事報告

- ・1/18 第5回クラブ協議会 於商工会館 井田会長以下9名出席。
- ・本日の会合:なし
- ・次回の会合:第11回理事役員会
- ・例会変更のお知らせ:別紙。

ニコボックス

○本日はお世話になります(瀬戸RC)

加藤 太伸君  
 ○水野市長よくいらっしゃいました。よろしくお願いたします。また、JCの中川様、江尻様、若杉様よくいらっしゃいました。 井田 武憲君  
 ○水野義則市長を歓迎します。また卓話を楽しみにしています。

浅野 善吉君、飯田 幸雄君、大野 良之君

世界理解推進月間

	2月 9日(土)	2月15日(金)	2月22日(金)	3月 1日(金)
例会予定	8日(金)振替 東尾張分区 IM 於 名古屋マリオットアソシアホテル	卓話者:富田 晃君 演 題:「雑 話」	卓話担当者:プログラム委員会 卓話者:箕輪 良孝君 加藤 清久君 演題:「悠々のインド」	卓話者:森井 晴生君 演 題:「未定」
3分間スピーチ	—	福岡 健君	高島 昇君	丹羽 敏行君

加藤 清久君、木村玄次郎君、桜井 雅博君  
西尾 輝久君、舟橋 龍秀君、箕輪 良孝君  
○水野市長、J Cさん、よくおいで下さいました。

伊豆原浩二君  
大嶋一二三君、唐井 仁一君、高島 昇君  
古橋 裕志君、森井 晴生君、山田 直樹君  
○1月22日 尾張旭RC 創立記念日。42周年を  
迎えました。永遠に続きます事を願ひまして。

本日出席者全員  
○3分間スピーチです。早退しなければなりませんの  
で手短で申し訳ありません。 箕輪 良孝君  
○早退します。 高島 昇君

## 卓 話

尾張旭市長

水野 義則



### ＜あいさつ＞

みなさん、こんにちは。市長の水野義則です。今日は、尾張旭ロータリークラブさんの卓話で話をさせていただく機会をいただいたことに、まずもって感謝申し上げます。今日はせっかくの機会ですので、議員の仕事とは、市長の仕事とは、というようなこととお話させていただきます。

### ＜自己紹介＞

まずは自己紹介をさせていただきます。私は、昭和46年生まれで、今41歳になりました。生まれた時は豊山町に住んでいましたが、5歳の時に今の尾張旭市根の鼻町に引っ越して来ました。結婚して一度新居町に住みましたが、現在は根の鼻町に両親とは別に住んでいます。三郷幼稚園、東栄小学校、東中学校と地元で進学し、旭丘高校、名古屋大学に進みました。大学では、情報工学、いわゆるコンピュータの関係をことを学びました。同級生がほとんど大学院に進む中、早く社会の現場に出たいという思いから、平成6年にソフトウェア会社に就職し、いわゆるシステムエンジニアになりました。以降、市長になるまで約18年この会社で勤務しました。

この会社の在籍中、平成11年に27歳で市議会議員に立候補し当選させていただき、以降、4期13年間務めさせていただきました。よく、立候補した動機を聞かれますが、一言で言いますと、社会に対して自分の考えを投げかける場所が欲しかった、ということになります。市内在住の両親は猛反対で、「そんな恥ずかしい思いをするくらいなら、自分達は市外に引っ越す」とまで言われ、勘当寸前という状況でした。

### ＜立候補の動機＞

もう少し立候補の動機について詳しくお話しますと、子どもの頃から社会の出来事に興味があり、新聞やテレビのニュースは好きで見っていました。ただその時は、深い考えはなく、ただ見ていた感じでした。少し意識が変わったのは大学生の時で、ちょうど湾岸戦争が起こった頃で、同級生が中東情勢などに非常に詳しいのを見て、自分ももっと考えをもって社会のことを見ないといけないと思いました。そんな折、テレビの番組

で、何のコネもなく若くして議員をしている人の特集をやっているのを、たまたま見かけました。それまでは、議員などというのは、自分とは縁のない世界のことだと思っていましたが、このテレビ番組を見て、そういう道もあるんだという認識を持ちました。前後関係は分かりませんが、平成7年の市議会議員選挙が無投票になったことで、尾張旭市の人は選挙とか市議会議員ということに対する意識が薄いのかな、と思い、この時は23歳で被選挙権がありませんでしたが、次の機会を少し視野に入れました。

### ＜市議会議員選挙＞

それで平成11年の市議会議員選挙に立候補した訳ですが、選挙は本当に大変でした。何せ、何をやらたいのか、というテキストのようなものは何もありませんでしたし、聞く相手もいませんでした。今でこそインターネットで何とでもなる時代ですが、当時はそうした情報もなく、いろいろなものをどこに、誰に頼んでいかも分かりませんでした。選挙事務所も貸していただけたところがなく、本当に苦労して探しました。今、思い返してみますと、奇跡的に選挙運動を乗り切り、奇跡的に当選させていただいたと思います。

### ＜市議会議員として＞

平成11年5月からは、会社員と兼務という形になりました。市議会議員というのは非常勤の特別職公務員ですので、兼職側の理解があれば可能であります。私の場合は、特に労働組合の無い会社でしたので、最初に立候補の相談をした折にはクビになることも覚悟していました。幸い、今いる部署で仕事上困らなければ良いのではないかと、ということになりまして、職場のご理解をいただいて立候補、そして兼職で続けさせていただきました。そういう意味では、大変恵まれた環境だったと思います。その分、生活はハードでして、議会が終わってから17時から出勤とか、午前中は仕事、午後から議会の会議とか、職場と市役所を2往復なんてこともありました。会社が休みの日には、市や地域のイベントがありますので、家族には迷惑をかけたと思います。

選挙と同じで、議員の仕事も「こうしなさい」というのは特に決まっていません。年に4回の定例議会と1回の臨時議会がありますが、全ての日が拘束される訳ではありませんし、議会質問も必ずしなければならないことはありません。それ以外に、議会としての活動や党派としての活動、校区議員としての活動などがありますが、必ずでなければならないというものはそれほど多くありません。極端な話、家業を優先することも可能ですが、そこはそれぞれの議員がそれぞれに判断して活動しています。

私は、1期目は議会改革を、2期目は市役所改革を、3期目は市民改革を、と訴えて議員活動をしてきました。そのためにもと、あちらこちらで積極的に発言をしてきましたが、最初の頃はそれはもう長老議員と言われる方々からの圧力はすごいものがありました。しかし、2年から3年、それを続けていたところ、だんだん私の意見も聞いていただけるようになりました。むしろ「お前はどうか考える？」と意見を求められる場面も増えてきました。これは嬉しかったです。信念を持って正しいことを伝え続けられれば認めてくれる人は必ず出てくるし、そうして仲間を増やしていけば大きなこともやれると感じ、この考え方は今でも私の政治的な活動のベースとなっています。

私の議員活動は、道路や側溝の苦情を聞いて陳情す



るような、口利き・陳情活動は非常に少なかったと思います。外に目を向け、いろいろな情報を収集し、いろいろな方と勉強し合い、尾張旭市の現状を把握した上で、それを尾張旭市に持ち込んだ時のメリット／デメリットを考え、新しい取り組みを始めたり、今までの取り組みを変えたりすることに力を入れてきました。例えば今、あさび一号を運行していますが、これも、私が当時の福島県小高町のデマンドタクシーの事例を調べ、会派で視察にお伺いし、議会で質問したことから「細かく回って、とにかく乗ってもらえるもの」ということで検討が始まったものです。こうした政策として立案していくことこそ議員の大事な仕事だと考えています。

私が議員になった頃は、まだまだ古い感じの議会でしたが、徐々に改革が進んでいきました。市議会だよりは顔写真が載るようになり、議事録もインターネットで公開されるようになりました。この頃は、議会改革という点では先進的な議会であったと思います。それが、栗山町の議会基本条例の取り組みを契機に、全国が一斉に議会改革に取り組み始め、尾張旭市議会はその流れに乗り遅れました。これではいけないということで、議長になってその取り組みを進めようとしたのですが、3年がかりで平成22年度に議長に就任し、1年間でいろいろな取り組みをしました。一番大きいのは、議会のあり方検討会の設置で、これは改選後の今でも続いています。

#### <市長選に向けて>

実は議員は3期で辞めるつもりでした。私としては議員という仕事は長いことやるものでもないと思っていましたし、10年一昔と言うように、10年経ってできないことはいつまで経ってもできないと考えていました。それを議員の任期にすると3期12年かな、と思っていました。ただ、3期目の最後の年に議長になって、議会のあり方検討会を立ち上げるところまでいきましたが、議会基本条例の制定まではできず、やり残した感が強くあったため、これで最後ということで4期目の立候補をさせていただきました。

そして4期目の1年が経とうとしたとき、谷口前市長が体調を崩され急逝されました。4期目を終えた後、どうするかなどということは考えていませんでしたが、国会・県会の道と、首長の道があるとすれば、首長の方を選択したい、という漠然とした思いはありました。市長選挙になる、ということで、予定外にその決断を迫られることになりました。幸いなことに、周囲の方からは「出たら応援するよ」という言葉がけもいただきましたし、この機会を逃せば一生立候補するチャンスは巡ってこないと思い、立候補を決断しました。この前後には、本当にたくさんの駆け引きがあり、嫌が

らせのようなこともありましたが、幸いな事に1ヶ月の短期決戦となりましたので、ドタバタしながらも選挙戦を乗り切ることができました。

#### <市長になって>

市長が空席でしたので、実は投票日に当選が確定し、そのまま就任日となりました。通常の任期満了による選挙ですと、2～3週間は就任までに時間がありますが、私の場合は選挙の後片付けをする間もなく就任となり、翌日の初登庁日には職員に対して訓示をすることになりました。

就任時に、既に骨格予算ではありますが新年度予算が事実上スタートしており、採用・退職に対応した最低限の人事異動も終わっていました。当然、止めてしまったり、大幅に変更したりすることもできましたが、すぐに新年度がスタートする中で、いたずらに混乱を招くことは市民サービスを考えた上でも好ましくないと考え、そこには手を付けませんでした。

そのような状況でしたので、なかなか私のカラーが出せていないというのは事実だと思います。新聞にもそう書かれていましたし、「市長が変わっても何も変わらない」というご意見もよくいただきます。最近は何でもすぐに結果を求める風潮があると感じますが、行政運営は焦ってはいけなく考えています。私の任期も4年あるわけですので、その中で少しずつ変化を感じていただければと思います。もちろん、個々の案件の対応はスピード感をもって早くするように、ということも常々職員に言っています。そうした個々の積み重ねが、やがては変化を感じていただけることに繋がっていくものと考えています。

スピード感をもって対応することもそうですが、それ以外に私が気をつけていることは、まずは情報発信をしっかりとしていくこと、現場を大事にして現場の声を積極的に聞くこと、そして自分の言葉で話をする、ことです。情報発信はかなり力を入れてきましたので、メディア等で取り上げていただける機会も増え、市民の皆さんの目に触れることも多かったと思います。現場が大事というのは、職員だけがやれば良いというものではないと思っていますので、自分もいろいろな現場に出るようにしていますし、若手職員との意見交換会もずっと続けています。それから、幸いなことにあちらこちらのイベントに呼んでいただけまして、その際にはごあいさつをとることが多いですが、せっかくの機会でするのでなるべく自分の言葉でお話をさせていただくようにしています。これは2年前に議長をやらせていただいた時も同じようにしていましたが、その機会は格段に増えました。よく「忙しいですか？」と聞かれますが、本当に忙しい職務だと思います。日によっては本当に分刻みのスケジュールになることもあります。

#### <議員と市長の違い>

さて、議員と市長はどう違うのか、というお話です。市町村の場合は、どちらも選挙で選ばれますが、市長は1人ですので1人で決定権があります。議会は合議制ですので、多数決でものごとが決まるのが基本です。そういう意味では市長の方が圧倒的に力が強いですが、独裁や暴走を止める仕組みとして議会があります。近年はこの議会の仕組みそのものが古いので変えていこう、という動きがあります。2つご紹介しますと、1つは、阿久根市というところであった、市長の専決処分の乱用です。議会の議決が必要な案件でも、特別な事情がある場合は専決処分をすることができます。阿久根市の場合は、議会に諮っていると時間がかかる、

という理由で専決処分を乱用しました。これは「自分の言っていることが正しいのだから、議会なんかには判断していただくなくて結構」という議会不要論に近い考え方だったと思います。もう1つは、議会を通年制にする動きも広まっています。議案の審議というのは、議会開会中にしかできないことになっていますが、年に4回の定例議会以外に、何かあった場合に臨時議会を招集するのは、実はなかなか大変です。もう1つ問題として、議会の招集権は議長ではなく市長にあるということがあります。つまり、議会側の事情で議会を開くことができない訳です。ならばずっと開会中にして、案件が出るたびに審議しようというのが通年議会の考え方です。これらの動きに合わせて、地方自治法が改正された部分もあります。

議会と市長のパワーバランスの話になりますが、今の尾張旭市の状況ではやはり市長のほうが議案提出権と予算編成権を持っているので、力としては強いと思います。もっとも、議会も一定の要件を満たせば議案を提出できますが、予算をとまなうものについては市長の予算編成権を侵害することになる、という考え方が行政実例上ありますので、実態としては難しい面があります。

やはり市長というのは、市長が「やる」と言えばやることになりまますので、市政運営上は強大な力を持っていると言えます。議員時代は、いろいろな提案もしてきましたが、実現しないことの方が多く、逆に提案が採用された時は嬉しく思いました。市長の場合は、議論は当然ありますが、指示すれば職員は当然そのように動きますし、予算も仕組みも出来上がっていきます。逆に、ストップがかかりませんので、「本当にこれで正しいのだろうか？」と自問自答するような怖い面も併せ持っています。その判断に迷いやブレが生じないよう、自分なりに信念をもち、また情報収集等に努めるようにしています。とはいえ、私は議員出身ですし、議会の機能をもっと活性化させようとずっと取り組んできた一人でありまますので、もっと議会に行政運営参加してもらおう、という考えを持っています。例えば、今策定作業中の第5次総合計画ですが、これまでは審議会に議員の代表を何人か入れて、という形でやってきましたが、これだと全ての議員が計画の策定にかかわることができず、ある時点で素案が示されてその内容を知り、基本構想の議決を求められる、ということになっていました。今回はこれを、全議員に対して説明して、全議員から内容についての意見を出していただき、内容によっては反映していくという仕組みに変えました。これにより全ての議員が意見を出すことができますし、また反映できることにもなります。逆に言えば、自分は知らないということにはならず、一定の責任を負っていただくことにもなります。

#### <新年度予算の内容について>

さて、気になる新年度予算の内容ですが、市長・副市長による二次調整が終わった段階で、最終の詰めに入っています。ただし、政権が変わった影響で、国の方の補正予算、新年度予算の関係が二転三転していますので、この時期になってもまだ流動的な部分があります。ですので、一部暫定的な内容も含まれていますが、まずは3つの大きな事業があります。1つめは第5次総合計画の策定、2つめは（仮称）高齢者生きがいセンターの整備、最後は名古屋市立保育短期大学等跡地の活用検討です。

予算案の中で、いくつか特徴的なものをご紹介します



すと、健康都市の取り組みの中では、認知症に対する取り組みを本格的に始めたいと考えています。それから、将来に向けた人材育成に注目し、少年少女消防団を立ち上げたいと考えています。それから、笹子トンネルの事故を受けるまでもなく、市内には老朽化した施設がたくさんあります。学校など計画的に改修を実施していくものもありますが、それ以外、例えば空調機器等も含めた長期計画をいくつか作り、計画的に修理・交換をしていきたいと考えています。手始めに、消防団の車庫について、災害時の拠点化も含めた建て替えを1つ予算化しました。もちろん、これらは議会で審議され、議決されて初めて実現するものであることを付け加えておきます。

#### <総括>

いずれにしても、財政状況が厳しいことには変わりありません。新年度予算では、各部署からの予算要求をまとめた段階で約7.5億円の財源不足の状態でした。その後、次年度送りなども含めて精査する中で、私のやりたい事業、緊急に必要な事業などを入れていきましたが、結局は地方交付税や借金に頼る部分が多くあります。その地方交付税も、国家公務員の7.8%の人件費カットの影響で2億円程度は減額されるのではないかと想定されています。そうした中、扶助費の伸びは1.7億円程度が見込まれており、新しいことを何もしなくても財政状況は厳しくなる一方です。

こうした状況は、一朝一夕にどうこうなるものではありませんので、中長期的な視野に立ったとき、やはり行政だけではなく市民や議会のご協力も必要である、私は選挙の時にそう訴えてきました。あれもこれもやりまます型の公約が多い中、ちょっとイメージが湧きにくい、ともすれば選ぶ方にとっては厳しい内容だったかと思います。「皆で支え合うまち」というのは、手を貸せる人はぜひ貸してください、ご負担をいただける方はご負担をお願いします、ということでもちづくりを進めていこうというものです。しかし一方では、それができなくなった時にはみんなで支えますよ、というメッセージでもあります。こうした考えを少しずつ広げていくことが、今後の尾張旭市のまちづくりを考えた時には必要であると私は認識をしており、その考えに基づいて個々のいろいろなことに取り組んでいきたいと思っています。尾張旭ロータリークラブの皆さまにおかれましては、そうしたまちづくりの先頭に立っていただき、他の皆さんの模範となっていていただくようお願いいたします。私の話を終わらせていただきます。ご清聴いただきありがとうございます。ありがとうございました。

**お断り** ※第5回クラブ協議会報告は紙面の都合上、次回の掲載にさせていただきます。